

# 世界文学・語圏横断ネットワーク第二回研究集会（総合文化研究所・同ネットワーク共催

二〇一五年三月一九日（二〇日）

二〇一四年九月に発足を記念して第一回研究集会を立命館大学で開いた「世界文学・語圏横断ネットワーク」（略称CLN）の第二回研究集会は、本研究所ならびにCLNの共催というかたちで、本学一〇一マルチメディア教室を会場に、二〇一五年三月一九・二〇両日開催された。CLNには創設時の発起人として、またいわゆる会員にあたる賛同人として、研究所のメンバーが多数加わっていることから、同ネットワークの在京事務局機能を担っている。そうした経緯から今回の共催に至り、会期中運営実務については賛同人でもある延一〇名に及ぶ後期課程院生とポスドクの諸君の助力を得た。

さてプログラムは掲載ポスターにあるとおりだが、二日間の参加者は延三〇〇名余。賛同人、一般聴衆に混じって、学内関係者の姿も見受けられた。なかでも初日午後、作家・詩人池澤夏樹氏を招いて行われたシンポジウム「世界文学と（しての）日本文学」には、三時間の長丁場にもかかわらず、一八〇名を超える聴衆に支えられ、質疑応答にいたるまで熱のこもった議論が繰りひろげられた。

Cross Lingual Network  
世界文学・語圏横断ネットワーク  
第2回研究集会

**2015.3.19-20**  
東京外国語大学マルチメディアホール101  
www.facebook.com/crosslingualnetwork  
共催：東京外国語大学総合文化研究所

<p><b>3月19日（木）</b></p> <p>10:00-12:30：セッション① 『現代文学と母語の問題』 （司会：西尾彦、中川成実）</p> <p>【ゲスト発表、母語-英語で書くこと】は文学を語性とし、広く人々の心をとらえたいが、それは一方に「母語とは何だろう」というまわめて現代語の問いを生み出した。いま、「母語非母語」の境界を問い直したい！</p> <p>12:30-14:15：発起人会議 （会場：総合文化研究所）</p> <p>14:30-17:30：シンポジウム『世界文学と（しての）日本文学』 （池澤夏樹、西尾彦、佐藤京、宮野光流、司会：和田忠彦）</p> <p>18:30— 懇親会</p>	<p><b>3月20日（金）</b></p> <p>10:00-12:30：セッション② 『越境的観点から考える世界文学の可能性』 （司会：山田悠之）</p> <p>【自らの言語・文化圏を越えた他の文化圏域（哲学、神学、美術、音楽等）との異質的な関係によって、自国の文化的枠組みや言語の伝統のうちに無意識のうちに規定された視点を、文学が大胆に打ち開く可能性を考える】</p> <p>14:00-16:30：セッション③ 『翻訳のフロンティア— 異語の仕組みの問いから新・批評まで』 （司会：早川誠子、橋本友香子）</p> <p>【『集音』を語る言語である翻訳は、ポストコロニアルから世界文学へと広がる批評の視野に新たな風を吹き込んで翻訳の哲学や政治学を促し、日本における翻訳の歴史もまた注視されている。翻訳論の対照性と今日の課題を探る】</p> <p>16:40-18:00：全体別議</p>
---	--

報告 和田忠彦